

平成 27 年度事業活動方針

平成 27 年 1 月 27 日

北陸経済連合会

第三次中期アクションプラン(H23～27年度)の4年目となる平成26年度は、政府・与党内で北陸新幹線敦賀延伸の3年前倒しが決定し、舞鶴若狭自動車道全線開通など高規格幹線道路整備にも一定の進展があった。並行在来線会社についても開業に向けた取り組みが着実に進められている。

北陸新幹線については、金沢開業が平成27年3月14日に決定し、広域観光や企業誘致等の推進のための北陸の認知度向上に向けた取り組みを行ってきた。平成27年秋開催の「北陸デスティネーションキャンペーン」(DC)についての準備も本格化し、昨年10月には全国販売促進会議が開催された。

一方、経済再生に向けた金融政策、財政政策や成長戦略の策定などにより、我が国の経済は回復基調にあると見られるものの、原子力発電所の停止に伴う電力の安定供給への懸念とエネルギーコストの上昇により、国際競争力の低下と産業の空洞化が顕在化しつつある。

また、人口減少、高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指し、政府に「まち・ひと・しごと創生本部」が創設された。

平成27年度は、第三次中期アクションプランの総仕上げの年であり、これまでの取り組みの総括・評価と社会経済をとりまく環境変化を踏まえ、魅力あふれる地方を創生する観点による活動を強化していく。

地域の自立発展・代替補完機能発揮に向けた社会インフラ整備、地域産業の競争力強化とそれを支える安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働などエネルギー政策の実施、北陸新幹線の金沢開業効果の最大化、女性の視点や若者の地方定着・回帰による魅力あるまちづくりなど、北陸の「地方創生」を目指すべく、以下の活動を中心とした取り組みを進める。

「社会インフラ整備」では、地域の成長戦略の基盤である北陸新幹線の整備促進を始め、高規格幹線道路におけるミッシングリンクの解消に引き続き取り組む。

「広域観光の推進」では、北陸地域の活性化のため、首都圏等へのPR・誘客活動に取り組むとともに、北陸三県が一体となったDC実行委員会に参画し、活動を強化していく。

「産業振興」では、産学金官連携によるイノベーションの創出と企業間連携を支援する活動を充実する他、企業誘致に向けた大都市圏でのPR活動を継続する。

「国際経済交流」では、企業活動の国際化に資する調査研究、情報発信等に引き続き取り組む。

「地域力向上に向けた取り組み」では、まず、エネルギー政策に関し、原子力を将来に亘って一定の割合で活用していくことが必要であり、最適なエネルギーミックスの策定や、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働を要望していく。

また、少子高齢化、財政悪化等の厳しい状況の中、北陸の「地方創生」に向けた、女性ならびに若者の活躍による地域力の向上等、地域の持続的発展に向けた取り組みを行う。

【主な事業活動】

北陸の「地方創生」を達成するために、特に、北陸新幹線の整備促進、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働などエネルギー政策の実施に向けた取り組みを行う。

I 災害時、命を守り、代替補完機能を担うための社会インフラ整備

- ・北陸新幹線の敦賀までの確実な早期開業や、大阪までのフル規格による早期全線整備に向けた支援・要望活動
- ・並行在来線の経営安定・利用者の利便性向上に向けた支援・要望活動

II 広域観光の推進

- ・北陸来訪の促進活動(首都圏におけるイベント・セールスプロモーション活動等)の拡大実施
- ・「北陸デスティネーションキャンペーン」実施に向けた活動
- ・大規模観光客誘致、新たなツーリズムの創造に向けた活動の実施(新規)

III 産業振興

- ・「北陸ライフサイエンスクラスター」等の産学金官連携によるイノベーション創出への支援や人材育成・技術力向上を支援する活動の実施
- ・北陸の新産業創出や産業競争力強化に資する調査研究、情報提供活動の実施
- ・「北陸フォーラム」等を通じた北陸への企業誘致・イメージアップ活動

IV 国際経済交流

- ・企業の国際化に関する調査、国際化展開に資する勉強会・セミナーの実施
- ・「北陸(日本)・韓国経済交流会議」の実施

V 地域力の向上に向けた取り組み

- ・社会インフラ整備促進、安全性が確認された原子力発電所の早期再稼働、観光振興、地方産業競争力強化、地域力向上等に対する要望活動(強化)
- ・魅力あふれる北陸地域創生に向けた地域の課題抽出・分析に基づく次期アクションプランの策定(新規)

*以上の方針に基づき事業計画案を各委員会で審議・策定 (H27/2~4月)の上、定期総会で決定(H27/5月)予定